

しま ばら ぼう さい じゅく
島原防災塾

み らい こ
未来の子どもたちに
つた
伝えたいこと

いち ど ふん か
～ もし、もう一度 噴火したら… ～

小学校 年 組

名前

運営委員

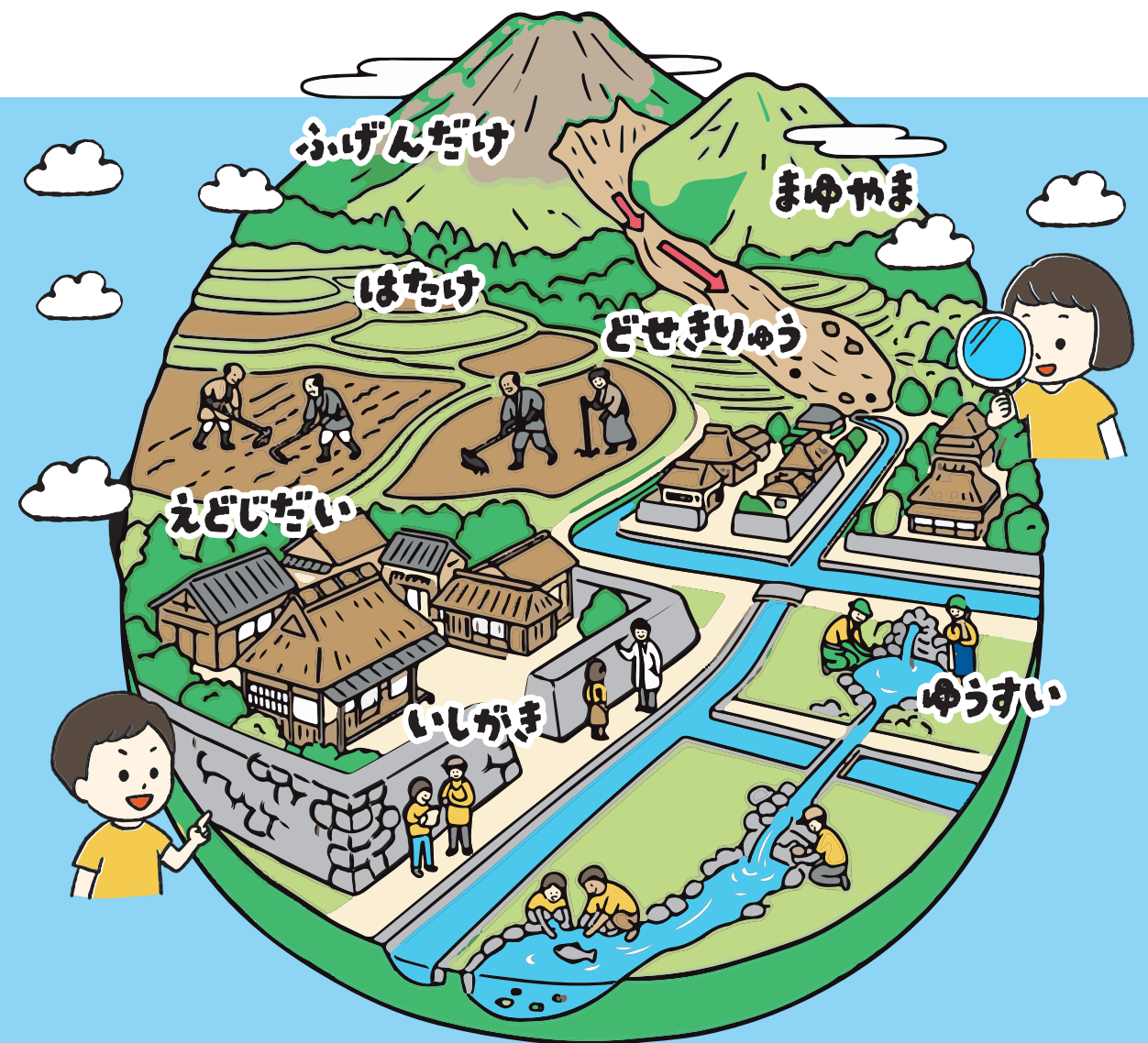
清水 洋 九州大学 名誉教授
横田 哲夫 安中地区町内会連絡協議会 会長
野崎 享助 杉谷地区町内会連絡協議会 会長
岸川 和生 島原市立第四小学校 校長
長岡 亨輔 島原市立第五小学校 校長
秀島 徳代 国土交通省九州地方整備局 雲仙砂防管理センター 調査係長
太田 和博 島原市市民部 市民安全課 災害対策班 班長
佐藤 佳奈 島原市市民部 市民安全課 災害対策班 事務員
柏野 広幸 島原市教育委員会 学校教育課 指導主事
森本 拓 (一社)島原半島観光ジオパーク協議会 専門員
杉本 伸一 雲仙岳災害記念館 館長
林 昌平 雲仙岳災害記念館 営業・企画広報 リーダー
長井 大輔 (公財)雲仙岳災害記念財団 災害伝承・調査研究グループ長 主任学芸員
東山 陽次 (公財)雲仙岳災害記念財団 災害伝承・調査研究グループ 学芸員

テキスト執筆・編集担当

長井 大輔
東山 陽次

写真提供・協力／順不同・敬称略

肥前島原松平文庫／島原城／長崎県／Deitz株式会社
島原市教育委員会文化財課 山下祐雨／出田農円 出田雄大／佐藤組 佐藤禎統／佐藤恵美
松本利美／園田芳弘／和田香弥／本田恵三／下田隆史／西田俊祐



島原防災塾副読本
2026年6月作成

企画・発行：島原防災塾運営委員会
レイアウト・デザイン：有限会社アド・シンク 川崎樹里





自由研究にまとめよう

本テキストの使い方

本テキストは、みなさんが地域学習や防災について、意欲的に学習に取り組めるようにワークシート形式とし、これらの学習内容をもとに自由研究としてまとめることができるように構成されています。

自由研究のまとめ方

研究成果は、一目でどのような研究なのかがわかるよう、模造紙にまとめるのがおすすめです。しかし、最近では、項目ごとにスケッチブックやリングノート形式でページを細かく分ける方法も増えています。

地域の方々への聞き取りや体験から
わかったことを上手にまとめましょう。

タイトルは
大きく色を
つけて際立
たせよう

タイトル 地域の体験からわかった〇〇

サブタイトル 〇〇から学んだ△△

研究の内容が
わかるような
サブタイトルも
つけよう

研究のきっかけ

研究の方法

わかったこと

まとめ・感想

参考にした
本やウェブ
サイトがあれば
書いておこう

参考にしたもの

〇年 雲仙 太郎
調べた日 〇月〇日

研究の目的と予想

調べた結果

あんなか ちくしゅうへん
安中地区周辺の
マップ

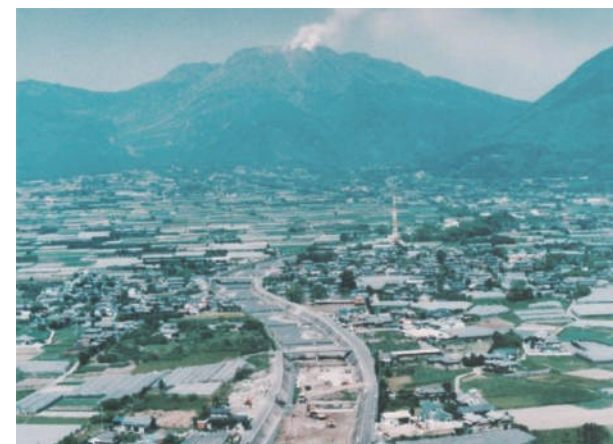
ひがい
被害と
まちづくり

イラストや
写真を入れると
説明したいこと
がよく伝わるよ

表や図を
つかってまとめ
ると見やすい

第1章 もし火山が噴火したら...

島原半島には豊かな大地が広がっています。それは雲仙火山が造り出した自然の恵みをいっぱい頂いて、人々が豊かな土地を求めてきた結果です。しかし自然は時として大きな災害をもたらします。もし火山が噴火したらどうなるか考えてみましょう。



(写真:長崎県提供)

① 火山灰



火山が噴火すると、火山灰という細かい石の粒が降ってきます。道がすべりやすく、目やのどを傷めたりして生活に影響を与えます。

② 噴石



火山の噴火では噴石という火山灰よりも大きな石が飛んでくることがあります。噴石は家の屋根をつきやぶることもあります。

③ 溶岩流・溶岩ドーム



地下から上がってきたマグマは地表に現れ、溶岩流として山を流れます。マグマのねばりけが強いと、流れずにもりあがって溶岩ドームをつくります。

④ 火砕流



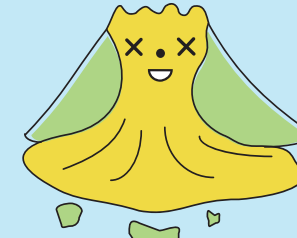
火砕流は、溶岩、火山灰、火山ガスなどが一緒に流れ下ってきます。時速100キロを超えることがあります。

⑤ 土石流



大雨で山の土砂や水がまじりあって勢いよく流れ下ります。川からあふれ出し、大きな家押し流すほどの力があります。

⑥ 山体崩壊(岩なだれ)



火山噴火や地震がきっかけで、山が崩れ落ちることがあります。崩れた土砂が海まで流れ込むと、津波を引き起こすことがあります。



図2-1 安中地区と雲仙火山

Google Earthを使用して作成

雲仙火山にもっとも近い集落の一つが島原市の「安中地区」です（図2-1）。

このためこの地域に住むひとびとは昔から火山の影響を大きく受けてきました。その歴史は少なくとも縄文時代のまでさかのぼります。イメージ図を見ながらその歴史を探っていきましょう。

これが後の安中地区の土地になります。ちょうど川が合流して水が集まりやすい場所に縄文晩期から弥生時代の遺跡が見つかっています。遺跡の発掘調査によるとこの地域で当時の住居跡は見つかりません。おそらく少し火山から離れた場所に住んでいて、木の実をとったり、農耕をしたりする作業場としてこの地域を訪れていたようです。

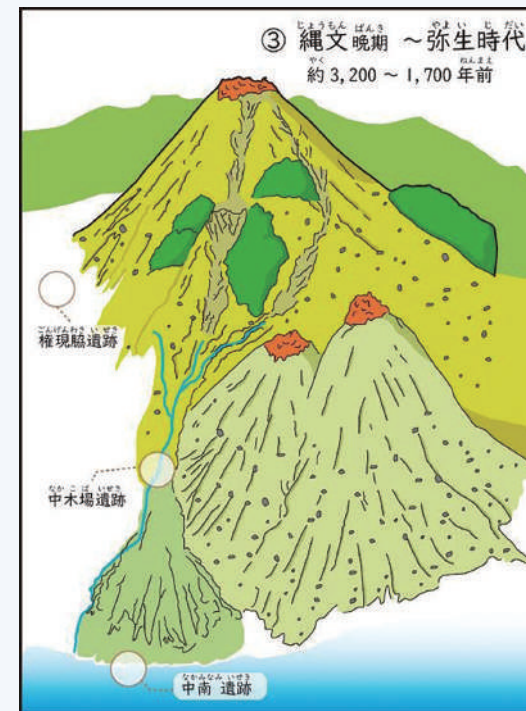


図2-4 平野の形成



図2-5 中木場遺跡の遺物

2-1 縄文時代の2回の噴火

縄文時代は今から約16,000年前～2,300年前の時期です。この期間に雲仙火山では溶岩ドームをつくるような大きな噴火が2回起きました。その内の一つが普賢岳の噴火です（図2-2）。

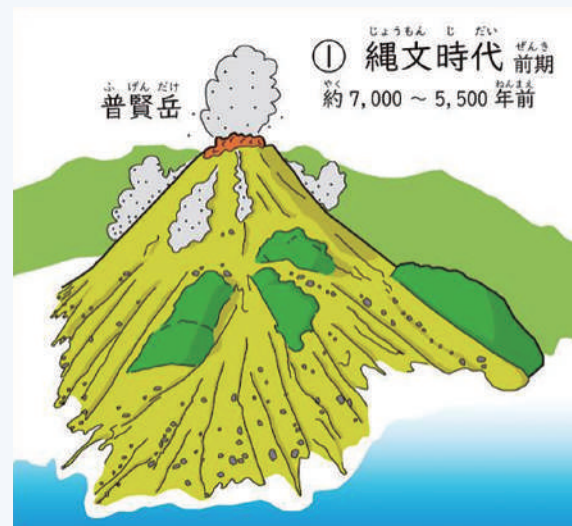


図2-2 縄文時代の普賢岳



図2-3 眉山の形成

その後、海側で噴火が起こり二つの溶岩ドームができます。これが後の眉山です。普賢岳と眉山の裾野がくっついて広い大地が生まれました。この頃、火山から少し離れた場所で縄文人が生活していた痕跡がみつかります。そこは現在の南島原市深江町の権現脇遺跡です（図2-3）。

2-2 平野の形成

火山の休止期には谷がつくれ、川は海まで土砂を運びました。これが後の水無川です。普賢岳と眉山の裾野が合わさるところで、川は合流し氾濫した土砂は平らな土地を作りました（図2-4）。



土をこねて器をつくり、貝殻を使って模様を刻んで作ってたんだよ。
石さじは突き出たところにヒモをつけて持ち歩いて、ナイフとして使用していたんだよ（図2-5）。

2-3 江戸時代と平成の噴火

記録によると江戸時代に普賢岳が2回にわたって噴火しました。1663年の噴火では普賢岳山頂から土石流が流れ、安中地区で30名を超える犠牲者が出ました。また、1792年の噴火では、地震も起きて眉山が崩れました（図2-6）。崩れた土砂が有明海に流れ込んだことで津波が発生し、島原半島と対岸の熊本で合わせて約1万5000人の犠牲者が出ました（図2-7）。これは島原大変肥後迷惑（島原大変という）と呼ばれ、記録されている中で国内最大の火山災害です。

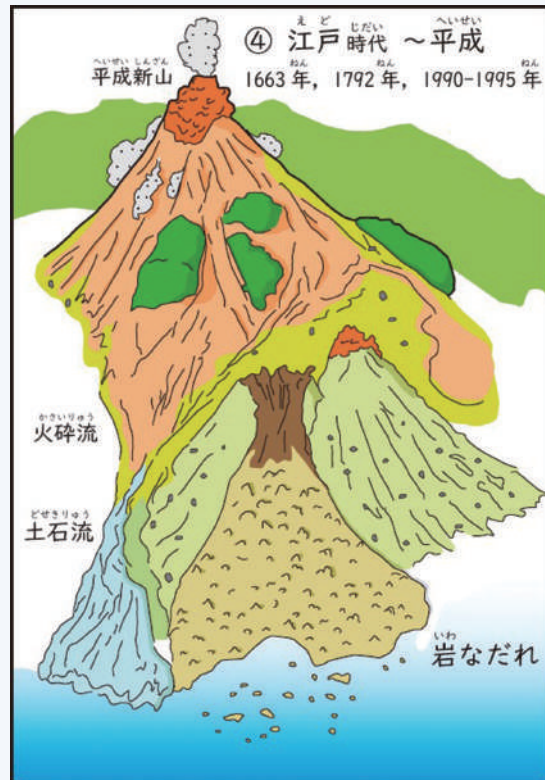


図2-6 まゆやま ほうかい へいせいしんざん たんじょう
眉山の崩壊と平成新山の誕生

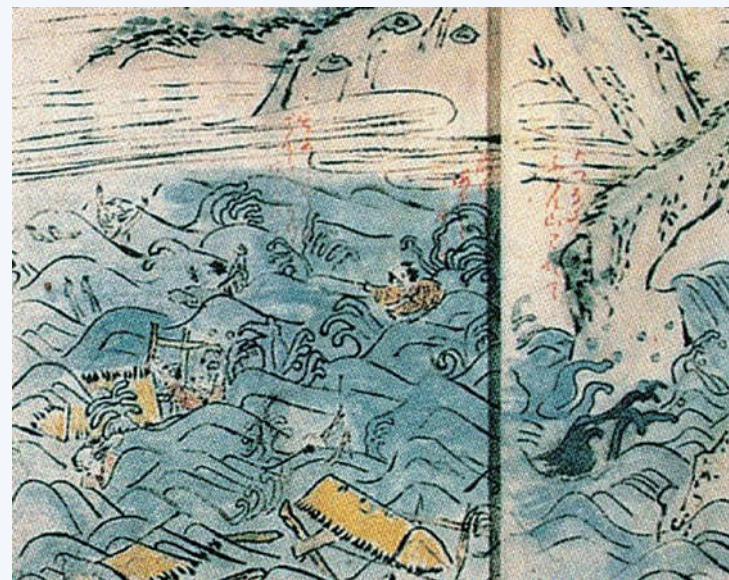


図2-7 つなみ ようす か え
津波の様子を描いた絵 肥前島原松平文庫所蔵
「肥前温泉災記」



図2-8 へいせいふんか どしゃ お よ あんなかちく
平成噴火で土砂が押し寄せた安中地区 Deitz株式会社撮影

2-4 江戸時代の町づくり

1792年の災害の翌年には、安中地区には島原城からのびる主要道「殿様道路」の復旧が島原藩より命じられ、周辺の住民が整備にあたりました。藩からは賃金のほか、お米も支給され農地を失った被災者の支援も兼ねていました。道の途中にあった急な坂や川沿いには、平らな石がいくつもしかれた「石畳」が作られました(図2-9)。これは道をしっかりと石で固めることで、大雨や洪水の被害から守るものでした。昭和以降、車社会になる中で江戸時代からの道はアスファルトの道に代わっていきました。



図2-9 どうろ ほ そう まえ いしだたみ
道路舗装される前の石畳 島原市教育委員会文化財課提供

町を守る工夫

島原大変後も文政3年(1820年)に大雨で洪水が発生し安中地区に被害がありました。その7年後に描かれた地図を見ると、家々をとり囲むように木が植えられている様子が分かります(図2-10)。これは風雨や洪水に対する防ぎ御のためだったかもしれません。また、現在同じ場所を訪れると、多くの家で樹木の代わりに石垣が家を取り囲むように配置されています(図2-12)。これらの石材は、雲仙火山の溶岩を加工したもので「島原石」という名前です。



図2-10 え ど じ だ い か ち ず
江戸時代に描かれた地図 島原城展示室にある「旧中木場村絵図」
文政10年(1827年)作成

INTERVIEW



こしょうそつぎょうせい まつもと
五小卒業生 松本さん

私が小学生だった昭和のころはまだ石畳が残っていました。そこを学校のみんなと遠足で歩いて、島原城の大手で開催されていた“初市”を見学にっていました。途中、小川が流れているところがあって、そこは飛び石があってそこを渡っていった思い出があります。

図2-11 で石垣の配置を見ましよう。家の上流はしっかり石垣で守られていて、家の入口は海側か、側面に配置されています。また、納屋の側面は石垣の基礎で囲まれ、石垣より高い部分に2階があります(図2-13)。路地もまっすぐ通さず、わざとずらして配置されています。このようにして家自体が防波堤となり、主要道路や下流の畑を守る役割がありました。

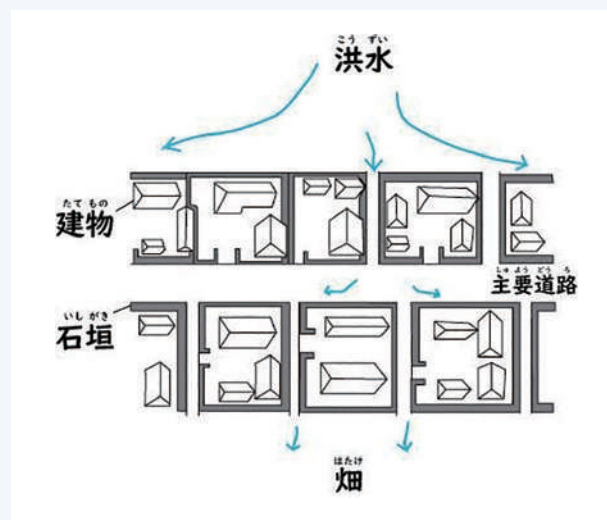


図2-11 安中地区大下町の家並み
洪水時の水の流れをイメージして加筆



図2-12 島原石を使った石垣



図2-13 納屋の基礎



図2-14 柱の支石



納屋の1階には牛などの家畜を飼って、2階には農具を保管できるようにしていました。また、柱の支石は約50センチの高さの島原石を使用しており、直接柱が水につからないように工夫されています(図2-14)。

命をつないだ水路「清水川」

1792年の災害後、安中地区の上流側では田畑に必要な水源が涸れてしまいました。住民は飲み水にも困るほどで、毎日谷を越えて近隣の村に水汲みに行かなければなりませんでした。この水不足は約30年続きました。中木場村の庄屋であった下田吉兵衛は、村民と共に水源を求めて村内各地を

掘り続けましたが、なかなか水脈が見つかりませんでした。6年の歳月を費やしたある夜、岩下山の麓に水源があると、夢の中で神のお告げを聞きました。翌朝そこへ駆けつけてみると、こんこんと水が湧きだしていたそうです。その後村民とともにお金と労力を出し合って村まで約5kmの水路を敷くことができました(図2-15.16)。これにより村民の飲用水と田畑への水が確保できるようになりました。この水路は市水道が整備されるまで約150年間も利用されていました。水源から眉山の斜面をうまく使って水路が引かれており、当時の人々の地形を読む技術がうかがえます。



図2-15 天満宮に残る清水川跡



図2-16 水源から引かれた水の経路



吉兵衛は、ももとは今の静岡県下田市に住んでいました。室町時代に安中に移り住んだ時に故郷の地名をとって、下田という姓を名乗りました。吉兵衛は清水川の整備の後、島原大変で埋まった土地を開拓し、港をつくりました。その後、この港周辺は良港として栄えました。この周辺は新しい港ということで「新湊」という地名が今も残されています。

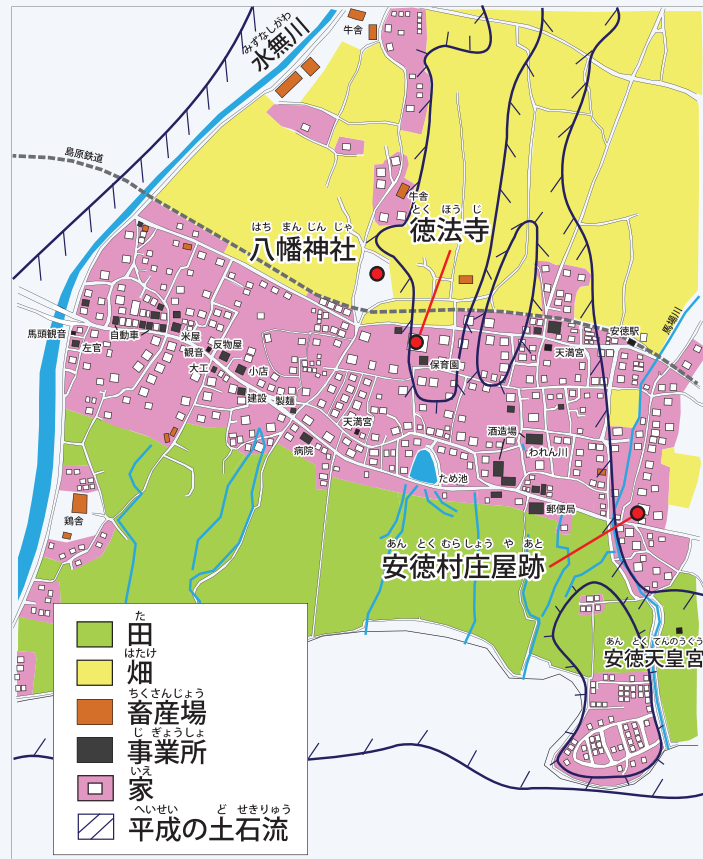
むかし いま へん か しら
昔と今のまちづくりの変化を調べよう

わたし え ど だい しょうわ れいわ ち ず みくら じだい こ
私たちのまちの江戸時代・昭和・令和の3つの地図を見比べてみましょう。そこには、時代を超
えて津波や土流という大きな災害を乗り越え、復興したまちづくりの工夫が刻まれています。
ち いき かた か こ く き
そして地域の方から過去にどんな暮らしがあったのかを聞いてみましょう。

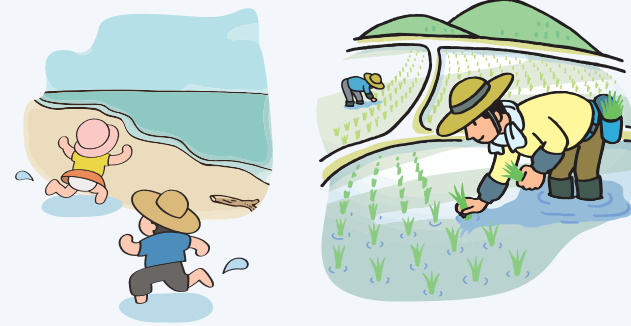
えどじだい
江戸時代のまちなみ



しょうわ
昭和のまちなみ



れいわ
令和のまちなみ



みなみあんとか す おおまち
南安徳に住む大町さん

わたし あんどく す やく ねん
私は安徳に住んで約80年になります。
くらし く はな
昔の暮らしについてお話ししたい
おも わたし こども ころ まち
と思います。私の子供の頃、この町は
いま ぜんぜんちが すがた こく
今とは全然違う姿をしていました。国
どう うみがわ いちめん た たう
道から海側は一面の田んぼ。田植え
じ き まち そうで いちれつ
の時期は、町のみんなが総出で一列
になり、苗を植えていました。地域の
むす つ つよ だれ いえ たう
結び付きが強く誰かの家で田植えの
ひ まち てつだ て
日は町の人みんなで手伝いに出ていま
し。えんだま にぎ だ が し か
した。5円玉を握りしめて駄菓子を買
みずなしがわ かせんじき
い、みんなで水無川の河川敷でソフ
たけ じさく
トボールをしたり、竹で自作のモリを
つく うみ およ
作ってペラをとったり。海で泳いだあ
いけ からだ なが あら かわ
とは池で体を流して洗いました。川
こうずい と き おとな
があふれる洪水の時は、大人たちが
まつ き き だ ね もと えだ
松の木を切り出し、根元と枝をワイ
むす なが く と てづく
ヤーで結んで流れを食い止める手作
りぼうはいてい つく まち まも
りの防波堤を作って町を守っていま
みずなしがわぞ まつ う
した。それで水無川沿いには松を植
かん り にちよう あさ
えて管理をしていました。日曜の朝
こども おとな じんじゃ かん
は、子供も大人もみんなで神社や観
のんさま そうじ ひと しぜん
音様を掃除する。そんな、人と自然が
ちか く
ぐっと近い暮らしをしていました。この
がくしゅう わかし まち く ふん
学習で昔の町の暮らしと、それが噴
か か つた
火でどう変わったかがみなさんに伝
うれ
われば嬉しいです。

え ど じ だ い し ょ う わ れ い わ ち が し ら

江戸時代・昭和・令和のまちなみの違いを調べよう！

Hint!

 回答例

- ・江戸から昭和にかけて広い範囲で家が増えた。
-
- 主要な道沿いにお店ができた。
-
- ・江戸から昭和にかけて津波跡が田になった。
 - ・平成の土石流が流れた場所に導流堤ができた。
 - ・平成の土石流が流れた場所にがまだすドームができた。

第3章 地域の人に聞いてみよう

大きな災害を経験した島原・安中地区では、今も多くの人がこの場所で、力強く暮らしています。地域の方々にとって、この土地はどのような存在なのでしょう？

そして過去の教訓をどう未来へつなげているのでしょうか？

地域の皆さんに、当時の体験と今の暮らしに息づく工夫について伺いました。



1 当時の「町内会長」さんに聞いた

Q: 当時土石流が起きたとき、町内会長さんはどうしていましたか？

A: 私は土石流がおきる中で同じ地区の方を救助しました。1992年8月の土石流のとき、町内の一軒一軒に避難したかどうか確認の電話をしたところ、避難していない方がいたので、救助に向かいました。水無川から水があふれ、国道251号に水がどんどん流れている中、腰まで水につかりながら200mほど水の流れに逆らってその方を抱えながら助けました。流れてきた土砂は湯気をあげるほど熱く、長靴を脱いで足を冷やしました。今考えれば無茶をしたと思いますが、町内会長として助けなければという思いで行動しました。

引用:雲仙・普賢岳噴火災害被災体験談集(島原防災塾運営委員会)

2 当時「高校1年生」だった方に聞いた

Q: 1991年6月3日の火砕流が起きた後、どのように避難しましたか？



下田さん

A: 火砕流の後、下校中のバスが東登山口で通行止めになり、雨の中を歩いて帰宅することになりました。人影のない不気味な道を通り自宅へ戻ると、家族はすでに避難した後でした。あそこが避難所かと、おぼろげに知っていた第五小学校へ歩いて向かい、奇跡的に家族と合流できました。家族の顔を見たときは、本当に安心しました。しかし、友達の中には一時連絡がとれず行方不明だと心配された子もいました。そんな体験から災害があったらどこへ避難するかを家族で決めておくことは大切だと思いました。

3 伝統ある倉をリノベーションした方に聞いた

Q: この倉はもともと何のために使われていましたか？ 現在はどのように使っていますか？

A: 私の家にある倉は、1階で牛などの家畜を飼い、農具や葉タバコの堆肥を仕舞う場所として使っていました。2階は葉タバコの選別作業場でした。現在は、趣味で今のライフスタイルに



佐藤さんと改装した倉庫



2階の趣味部屋

合わせて、倉をリノベーションしました。1階は愛車を入れるガレージに、2階は趣味の部屋にしています。今も楽しみながら、少しずつ自分好みの空間へと作りかえています。

4 現在「イチゴ農家」を営む方に聞いた

Q: 大きな被害を受けたこの場所で、どのようにしてイチゴ栽培をしていますか？



出田さん

A: 普賢岳災害の前はメロン農家でしたが畑も家も土石流で流されてしまいました。被災後10年ほどは、地域の復興のため、ビニールハウスの建設に取り組みました。ハウス建設が落ち着いた頃、この地域では少ないイチゴ栽培を始めました。目指したのは、経済不安や気候変動に左右されない自立した農業です。高価な化学農薬や肥料に頼らず、地元の落ち葉などを土に加えて自生菌を育てる独自の土づくりを行っています。私の信念は、農業を次世代が自分もやりたいと憧れる職業に変えていくこと。その情熱が、このイチゴに詰まっています。

5 現在「ひじき漁」を営む方に聞いた

Q: 昔からこの場所はどんな場所でしたか？



西田さん

A: 眉山のふもとに広がる海の浅瀬でひじきをとっています。収穫したひじきは、乾燥して、業者へ納めています。昔からこの浅瀬は、ぎんばと呼ばれる海藻が豊かな場所でした。ひじきは、12月頃からシーズンが始まり、有明海ではひじきだけでなく、てんぐさ、あかもくなどいろいろな海藻がとれます。噴火当時、この周辺は立ち入り禁止となりましたが、山からの土砂の栄養が海を豊かにし、蛸壺にはたくさんタコが入っていることもありましたが、現在は埋め立てられ、景色は変わりましたが、再びひじきが育つ豊かな海に戻り、火山の恩恵を受けながら収穫を続けています。

まわりの人へインタビュー！

Q: お名前は？
被災当時の【住まい】と【お仕事】は？

[名前]

[被災当時]

Q: 被災したとき、そして、まちが復興するとき、
どうしていましたか？

[被災したとき]

[復興するとき]

Q: 体験をふまえて、今、もう一度同じ災害がおこったら、どうすればよいと思いますか？

もっと知りたい・調べたいときは、ここへ行ってみよう！

しまばら し しゅうへん じ しん か ざん つ なみさいがい めぐ かか み
島原市の周辺には、地震・火山・津波災害や恵みに関わりのある見どころがたくさんあります。見ご
たえたっぷりの風景や昔から現在につながる災害の歴史を現地で体感しよう。

1

ていてん
定点



1991年6月3日に発生した火砕流により、報道関係者、タクシー運転手、火山学者など多くの方の尊い命が失われました。災害から30年の節目に周辺に埋もれた報道車両やタクシー車両、モニュメントなどが整備され、災害教訓を未来に伝えていきます。なお、入域には申請が必要です。

2

きゅうおお の こ ばしょうがっこう
旧大野木場小学校



1991年9月15日に発生した火砕流にともなう熱風によって焼失しました。この被災校舎は当時のまま保存されており、噴火災害の凄まじさを伝えています。敷地内のイチヨウの木も焼けましたが、翌年には鮮やかな緑の芽を吹き、地域の人々に元気を与えてくれました。

3

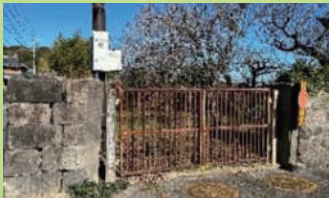
てんまんじんじゃ し みずがわ
天満神社の清水川



寛政4年(1792年)の島原大変によって中木場村の水脈が枯れてしまい、村人が大変な苦勞をして約5km離れた岩下山麓から水路を引いてできた川。1821年、木樋による水道が完成し、村は潤いましたが、後の1857年には切石を用いた水道が完成しました。

4

なか こ ばむらしょうや あと
中木場村庄屋跡



島原大変による深刻な水不足から中木場村を救った下田庄屋跡。庄屋は自ら先頭に立って水源を探索し、夢のお告げを頼りに岩下山麓で水源を発見。すぐさま村までの用水路を完成させ、村人の苦境を救い、今もこの功績が語り継がれています。

5

みずごんげん ちからいし
水権現の力石



中木場水道の完成によって町は豊かに潤いました。住民はその恵恩に感謝し、江戸時代から清水川の水権現様を守り神として大切にまつり続けています。毎年2月には例祭が行われ、大正初期までは若者たちが「力石」と呼ばれる石を持ち上げて力を競い合いまつりを盛り上げていたそうです。

6

どせきりゅうひさい か おく ほ ぞんこうえん
土石流被災家屋保存公園



1992年8月に発生した普賢岳噴火に伴う土石流に埋没した9棟の家屋が当時のまま保存されています。当時、水無川を流れた土砂があふれ、道路は寸断され、多くの家屋と田畑に被害を与えました。これらの家々は約3mの土砂で埋没し、土石流の凄まじさを伝えています。

7

はちまんじんじゃ
八幡神社



八幡神社は平成の普賢岳噴火による土石流で被災してしまい、鳥居はほとんどが埋没しました。しかし、土地がかさ上げされ、同じ場所に再建されました。移設された鳥居には、災害からの復興に力をつくした人々の思いが込められています。

8

かわ
われん川



水無川の導流堤内にこんこんと湧き出る小川。平成の普賢岳災害前は地元の人々の生活用水として利用されていましたが、土石流により飲み込まれました。ここは災害後、復興を願う地域住民の熱意により災害に負けず生き延びた木々を移植し、川や池を整備して蘇った場所です。

9

あん なかばいりん
安中梅林



安中梅林は江戸時代に農業振興と島原藩の財政を確保するため植えられ、かつて水無川沿いに群生していました。しかし、平成の普賢岳噴火の土石流によって被災しました。2000年頃から、ふるさとの安中梅林の復活を願って、地元小学生と住民によって植樹が続けられました。

10

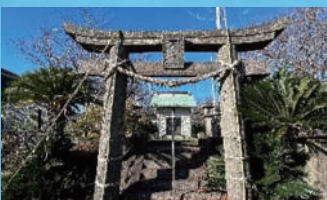
みなみくえやまりゅう し く よう とう
南崩山流死供養塔



島原大変のときに島原藩が建立した流死菩提供養塔。島原大変の翌年に被害が大きかった場所に藩が命じて7箇所建立した内の一つです。多くの供養塔は海の方角を向いており、今でも地域の方々の手で供養が続けられています。

11

あん とくてんのうぐう
安徳天皇宮



壇ノ浦の戦い(1185年の源氏と平家の最終決戦)で敗れた平家と共に、わずか8歳で海に身を投じられた安徳天皇ゆかりの神社。この海岸に天皇の御冠が漂着し、当時の村人たちがそれを神体としてお祀りしたことが始まりとされています。

12

ちち ぶ うらこうえん
秩父が浦公園



眉山の山体崩壊がつくった風光明媚な景色が見られる海の公園。大正14年(1925年)に秩父宮殿下がこの景色を鑑賞されたことを記念し、秩父が浦と呼ばれるようになりました。目の前に見える島々は眉山が大崩壊し、大量の土砂が海に流れ込んだ名残です。

平成噴火の火砕流範囲

2 旧大野木場小学校

農業研修所

1 定点

まゆやまロード

水無川1号砂防ダム

中木場遺跡

3 天満神社の清水川

江戸時代の岩なだれ範囲

4 中木場村庄屋跡

第五小学校 真光寺

5 水権現の力石

第三中学校

10 南崩山流死供養塔

南崩山の供養墓

島原南IC

11 安徳天王宮

12 秩父が浦公園

火砕流最長到達地点
(ふかえ桜パーク)

平成噴火の土石流範囲

水無川

導流堤

7 八幡神社

島原大変慰霊碑

9 安中梅林

徳法寺

8 われん川

がまだすドーム



0 500m 1km